

## 学 会 記 事

### 第 82 回新潟消化器病研究会

日 時 平成 17 年 7 月 9 日 (土)  
午後 1 時 30 分～  
会 場 新潟グランドホテル 5 階  
常磐の間

#### I. 一 般 演 題

##### 1 肺癌の虫垂転移により急性虫垂炎をきたした 1 例

田島 陽介・酒井 靖夫・坪野 俊広  
武者 信行・鈴木 晋・小川 洋  
正道 隆介・広野 達彦\*  
済生会新潟第二病院外科  
西新潟中央病院呼吸器外科\*

症例は 72 歳の男性。70 歳時に肺癌（扁平上皮癌）のため右肺中下葉切除（pT4N2M0 stage III b）が、術後 2 年ほどして右下腹部痛を認めた。臨床症状、血液データ及び腹部 CT より急性虫垂炎と診断し、緊急手術となった。虫垂は腫瘍性に肥厚腫大しており、また、腹腔内には多数のリンパ節転移が存在した。虫垂切除を施行したが、病理所見により肺癌の虫垂転移と診断された。術後数ヶ月は良好に経過したが食欲不振などの愁訴は遷延した。徐々に全身状態が悪化し、虫垂切除から約半年後に死亡した。肺癌において消化管転移はまれであるが、イレウスや穿孔など急性腹症の形で発症する頻度は少なくなく、腹痛、嘔吐、下血などの腹部症状が見られた場合、迅速な精査が必要である。また、適切な外科的処置が遅れてはならない。

##### 2 腹腔鏡検査・手術が施行された、日常診療上比較的まれな 7 疾患

山崎 俊幸・中島 真人・松原 洋孝  
桑原 史郎・大谷 哲也・片柳 憲雄  
山本 睦生・斎藤 英樹

新潟市民病院外科

当科では腹腔鏡手術を積極的に施行していることから、胆石症・胃癌・大腸癌など通常の腹腔鏡手術適応疾患以外にも、様々な疾患に遭遇してきた。定型的腹腔鏡手術以外の比較的稀な疾患として、以下の 7 疾患を供覧する。

1) 腸重積が疑われた急性腸炎、2) 虫垂炎との鑑別が困難であったクローン病 2 症例、3) 腹膜に多発肉芽腫が併存した虫垂炎、4) 確定診断に苦慮した腹膜播種を伴う脾癌、5) 腸閉塞症状で発症したアミロイドーシス、6) 遅発性の腸閉塞をきたした外傷性腸間膜裂孔、7) 虫垂炎と診断された子宮筋腫茎捻転。

腹腔鏡検査は低侵襲で情報量も多い上、必要に応じて処置・手術に移行できる利点がある。不明の腸閉塞や虫垂炎と鑑別困難な腹痛などには 1 つの有用な手段と思われた。

##### 3 下血を契機に診断・治療された横行結腸動静脈奇形の 1 例

斎藤 崇・玄田 拓哉\*・斎藤 悠\*  
夏井 正明\*・姉崎 一弥\*・本間 照\*  
関根 輝夫\*・川口 弦\*\*  
清野 康夫\*\*・塚田 芳久\*\*\*

新津医療センター病院内科  
県立新発田病院内科\*  
同 放射線科\*\*  
県立十日町病院内科\*\*\*

症例は 64 歳、女性。昭和 63 年急性心筋梗塞・糖尿病で入院。以後数回貧血で入院したが出血源は不明。平成 17 年 1 月 20 日頃から黒色便・動悸・めまい出現し 24 日入院。同日の GIF では出血源なし。翌日の CF で横行結腸に  $\phi$  1cm 程のなだらかな立ち上がりの隆起あり。隆起は全体に拍動し、発赤。表面には細い蛇行血管があり、頂部